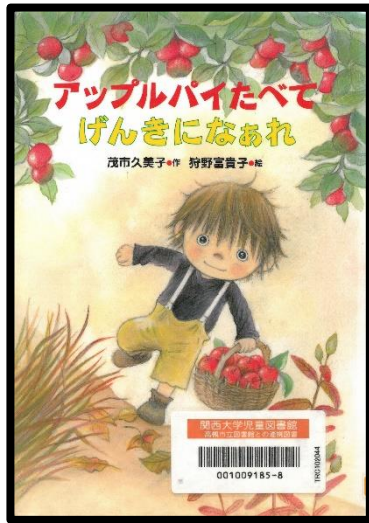


アップルパイたべてげんきになあれ

特集:たべもの

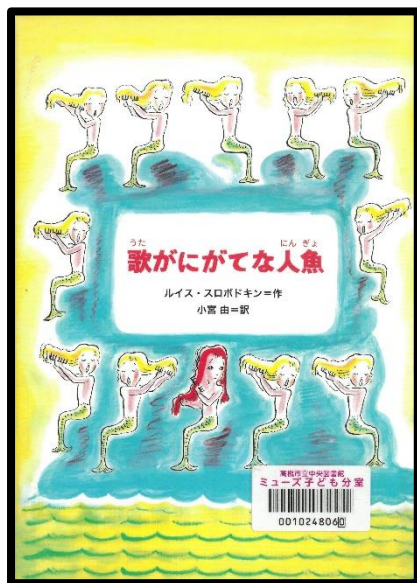


茂市 久美子／作
狩野 富貴子／絵
国土社〔913 モイ〕

ケーキ屋のおじいさんのところに、ふしぎな男の子がやってきました。おじいさんのアップルパイが町でいちばんおいしいとほめられて、おじいさんはうれしくなります。

男の子は元気のない友達のためにいっしょにアップルパイを作りたいとおじいさんにおねがいます。すっぱいけれど食べると元気になるリンゴが山にあるといわれて、ふたりは山へむかいます。

うた 歌がにがてな人魚



ルイス・スロボドキン／作
こみや ゆう
小宮 由／訳
瑞雲舎〔933スロ〕

むかし、とおい海の底に人魚の学校がありました。せいとたちはりっぱなおとなの人魚になるためにたくさんのことを学んでいました。中でもたいせつなのは歌のじゅぎょうでした。

人魚といえば、あまくすんだ声で歌が上手だと思われがちですが、ひとりだけ歌がにがてな人魚がいたのです。

歌のにがてな人魚が意外な活躍をするお話です。

おおきなラッパとちいさなオリー



ジャック・ベクドルト/文

オーリアス・バタグリア/絵

清水 奈緒子/訳

徳間書店〔エ〕

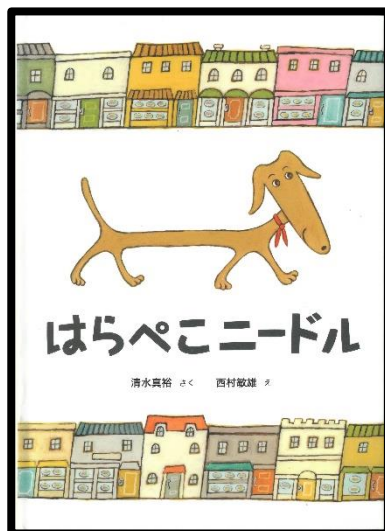
ラッパをふくのがだいすきなオリーは、バスホルンという、いちばんひくい音がでるラッパをふいています。

ところがうちのなかでふくとお母さんに、そとでふときんじょのひとたちにラッパの音がうるさいといわれてしまいます。

そこで、うみのうえでふくことを思いついたオリーは、ちいさなボートにのっておきまでこいでいきます。

オリーのラッパがゆかいな騒動をまきおこします。

はらぺこニードル



清水 真裕/さく

西村 敏雄/え

童心社〔エ〕

はらぺこののら犬ニードルは、町のゆうめいなレストランに入りますが、おいだされてしまいます。

ニードルがしょんぼり歩いていると、町はずれにヌードルさんのお店を見つけます。ヌードルさんにおいしいごはんをたべさせてもらいますが、なぜかお客さんがひとりもいません。

町には人気のお店があり、町はずれまでお客さんがきてくれないというはなしをきいたニードルは、いいことをおもいつきます。